

連盟会報

発行日：2015年(平成27年)9月25日

…◆第40号◆…(P-1)

発行：NPO法人 日本抜刀道連盟

企画・構成・編集：広報部

〒130-0026 …【事務局】…

東京都墨田区両国 2-21-5-802

☎03-3631-5851 FAX:03-3631-5852

“修練と絆”…“絆と連帯” 秋季『制定刀法・公認審判』伝達講習会

地球温暖化の影響か、大気不安定：豪雨・風水害・猛暑が続いた七月・八月が過ぎ、駆け上がってくる初秋の足音が聴こえる九月五日…。平成二十七年(2015年)度連盟事業計画に基づく本部主催の『制定刀法・公認審判』伝達講習会が、東京武道館に於いて盛大に開催された。

講習会は開会に先立ち、司会の菅野茂事務局長より、本日は抜刀道存続の生命線である抜刀道修練中の『安全』について、連盟会長の「特別講話」を戴くとの案内があった。

続いて、午前は教務部主体の制定刀法伝達講習。午後は大会審判長主体での公認審判講習を行い、午後四時終了との案内があり開会式に入った。

大江連盟会長は、遠路お忙しい中での講習の参加に感謝する。大会ではバツキの無い審判が出来る様に、本講習での成果を挙げてほしい。

また審判は、人の上に立つて判定を下す重要な役割だ。我々は、目先の勝負にとらわれず「心」と「技」を鍛えようという精神を忘れてはならないとの挨拶があった。

◆連盟会長 講話内容要約◆

私は、抜刀道修練の心得は錬磨するものであって『慢心と我執』は上達の妨げとなると、常日頃申しあげている。

試し斬りと称して刀の「切れ味を試す」とか、テレビ・映画の様に格好の良さを売り物にするものではないことを認識してほしい。また、刀を振り回し、めったに斬りするものでもない。

実体験を申し上げると、昭和五十三年七月のことだった。自衛隊富士学校にて講習会が始まる前の自由稽古中に、仲間の一人が「左手の平」を大きく切って負傷した。我々の形では十本目の形である。

これは、逆袈裟に斬り上げるべく素早く刀を抜き、かつよく見せようとの邪心が心に芽生えて、刀を抜くときに修練未熟で鞘を割り事故となった。「左手の平」の傷口は広がり、自衛隊のジープで町医院に飛び込み治療し、その夜は痛い痛いと呼び、眠れないほど、悲惨な講習会前日の本人の様子であった。

振り返ると、上手になった時の心の油断。つまり、かつこ良さを求める時に怪我をする。我々はこの様な反省を教訓に、稽古中の安全確保を念頭に教本に基づき修練を積んでほしい。

また、重要な事は、刀による大きな事故は、本連盟だけでなく他の連盟にも迷惑をかけると同時に世間からは、抜刀道そのものの存続が問われるのだ！…と、言うことを『再認識』してほしい。

連盟会長の講話を踏まえ、午前は、教務部長を中心に教務部員の活躍により講習が進められ、午後は公認審判の講習が、審判長を中心に「座学・実技」と進められ熱気に溢れた中味の濃い講習会は予定通りに終了した。



“人生一期一会” 修練と絆 ◆ 絆と連帯
秋季『制定刀法・公認審判』伝達講習会
2015年(平成27年)9月5日 於：東京武道館

◆記念集合写真提供：本部専属写真家/保泉正夫 ◆講習会スタッフ 本部広報部/藤原義彦 & 小林克己

秋季講習会には、関東地区を中心に
《南と北》から
遠路「高知・新潟・山形・青森」の各支部
からの参加を得て東京武道館には
『49名が参加（内：6段以上19名）』
の精鋭選手の気合と熱気が走った…。

□ 【順不同】 □

◆出席者名簿◆

◆ 山形支部：遠藤 仁・佐藤淳一 ◆ 高知支部：境 泰雅・今村一彦・濱田定昭 ◆ 新潟支部：斎藤朝男
◆ 埼玉支部：関原 勝・深川哲雄・本橋忠雄 ◆ 八千代支部：藤原義彦・藤原弘通・長谷川徹
◆ 忠 勇 会：松浦健城・加地正司・西原彩子・甲野ルリ子・中川佳奈子・酒井康充
◆ 東 京：菅野 茂・柴田輝久・山口達弘・市角壮玄・植田茉衣子 ◆ 土成会：堀内城夫・長野宏治
◆ 鎌倉支部：横山慎平・斎藤亮一 ◆ 川崎支部：大塚光男・佐藤敬子・田村 悟・功刀一好
◆ 山形支部：遠藤 仁・佐藤淳一 ◆ 剣誠会：藤田久男・コレツタ ヨランタ ◆ 青森支部：小池 明
◆ 笠間支部：浦井一彦 ◆ 英 信 会：岡本光正・藤田 僚・大塚晋二 ◆ 英 信 館：山口 博
◆ 秩父支部：野村寛一・関口英治・伊藤 仁 ◆ 尚 武 館：小林克巳・上野浩一郎
◆ 武 蔵 会：平川政博 ◆ 秩父興心会：野口常男 ◆ 墨桜会：戸川 香

…【本部 役員】…

連盟会長：大江 正 男・相談役：中世古 勝司・大会審判長：中 島 正 夫



↑ 連盟の次代を背負う各県各支部から参加した若手の精鋭選手と
各県支部長・公認指導員・公認審判員の雄姿

…◆講習会 講師陣◆…

◁※ 写真(左)から
菅 野 事務局長・中世古 相 談 役
大 江 連盟会長・中 島大会審判長
大 塚 教務部長・遠 藤 教務次長
※ 後方(左)から
境 教務部員・藤 田 教務部員



◆東京武道館全景◆ ⇨

本部主催《制定刀法・審判講習》会場
として現在使用中。

また月2回。大塚教務部長指導による
実技中心の稽古会を参加自由で実施中。

□ □

使用実績を積み、将来連盟全国大会の
会場として使用出来るよう奔走し
現在事務局長が鋭意交渉中。



◆制定刀法講習◆

…◆講師陣◆…

教務部長 大塚光男 範士八段
教務次長 遠藤 仁 範士八段
教務部員 藤田久男 錬士七段
教務部員 境 泰雅 錬士六段



↑ 大塚教務部長の制定刀法
「模範演武」指導

↓ 教務部講師陣による
制定刀法…実技個別指導



■ 制定刀法研修は連盟教本に基づき「制定刀法10本」の刀法所作留意点を含めた丁寧な解説を行い…教務部長大塚光男範士が携刀姿勢・帯刀姿勢・礼式・刀の抜刀・納刀・柄の握り方等の基礎を説明後、制定刀法10本の模範演武で実技指導した。

■ 模範演武指導に引き続き、教務部の精鋭講師により各ブロックに別れての実技指導が行われ、気合の入った刀法実技を修練…。初秋を迎えた武道館道場内には、真剣に取り組む参加者の熱気が溢れた…。



◆ 大江連盟会長による「審判旗受け渡し」実技 ◆ ↓

◆公認審判講習◆

■ 講習会は順調に進み、午後から「公認審判講習」に入り、大江連盟会長指導による『審判旗の受け渡し』時の「留意点と実技指導」が行われた。

1. 大会審判長から“審判主任”への「審判旗」の受け渡し。
① 神前を正面に左から、第1会場“審判主任”～第4会場“審判主任”と整列する。
② 第1会場「審判主任」から審判長の前へ出て審判旗を受領。

◆ 写真(右)参照。 ⇨

- ③ 審判長は審判旗を手渡す際は、審判旗の手元を相手側にむけるように、時計回りに回転させ手渡す…。
- ④ 審判主任が審判旗を受け取る際の前後は双方一礼して受領する。 ⑤ 審判旗を受領した審判主任は、審判旗を右手に下げてから一礼する。



審判長

審判主任

□ □

2. 審判主任から各会場の「主審・副審」への審判旗の受け渡し。

- ① 審判主任は、担当コート(会場)に戻り起立して待つ「主審・副審(左)・副審(右)」の順に審判旗を時計方向に回し ⇨ 手元を相手に向けて手渡す…。

⇨ ◆実技指導の大江連盟会長◆





▲ ▲ ▲ ▲
副主副 審判
審審審 主任

◆ 審判長から審判旗を受けた審判主任は、コート(会場)で待つ「主審・副審」に手渡す ◆

- ② 審判旗を渡す順位と渡し方・受け方。
- 競技開始前の手渡し ■
 - [順位] 主審⇒左副審⇒右副審
 - [渡し方] 審判旗の手元を相手に向け、上からスライドして渡す。
 - 競技終了後の返却 ■
 - [順位] 主審⇒右副審⇒左副審
 - [受け方] 各審判員は、審判旗を時計方向に回し手元を審判主任に向け手渡す。
- ③ 審判主任は主審旗を「上に」し副審旗を下に重ねて受理する。



…審判実技と審判判定要点の修得…

引き続き「公認審判講習」は、中島大会審判長が中心に、教務部講師陣の協力と熱意ある指導の基に、下記の『座学・審判の眼…模範演武・審判実技訓練』と、参加選手と講師陣が一体となった中味の濃い講習が展開された…。

…◆公認審判 研修内容◆…

- ▼《座学》① 連盟活動理念と『公認指導員・公認審判員』の存在意義と、役割。
 - // ② 大会審判要領と要点。資料配布。
- ▼《実技》③ 審判旗の判定時の『旗の上げ方・下げ方』の要点。
 - // ④ 制定『審判・審査の目』解説と「模範演武」。
 - // ⑤ 試合形式試斬による審判実技訓練と評価。

特に中島大会審判長からは『この審判団の凛々しく“的確な判断による“判定と態度”から会場の緊張感が生まれ、選手の心意気と闘魂を高揚させるとの《審判態度の重要性》と役割が説かれた…。



↑ 何処を見ているのか『審判・審査の眼』の具体的な解説に基づき模範演武をする 教務部：藤田久男講師



↑ ◆ 講習会に真剣に取り組む精鋭選手の試合形式実技の審判判定をする、各支部の公認審判員の先生方。

◆ 審判実技訓練 ◆ 写真(左から) ⇒

■ 高知支部：今村 7 段・八千代：藤原 6 段・秩父：野村 7 段。
審判旗の判定は《体則前方 45° に上げる》。メリハリのある審判旗の上げ方は、選手の心意気と闘魂を揺さぶる…。



◆【心打つ！言葉の行間】◆

武蔵は50歳を過ぎ、熊本藩主・細川忠利候に仕えたが、一・五セナチの間合で、敵の太刀を交わす生死の中で、不動の心『蔵（いわお）の身』を、剣の極意としたと言う。ある時、忠利候は武蔵に『蔵の身』とは何かと尋ねた。『馬之助、上意である。切腹を今から仰せつける』と言った。忠利候は、これを聞き仰天したが馬之助は少しも動じず、静かに頭を上げ「上意かたじけなく受け承ります、身支度整えるまでお待ち願いたい」と平然と立ち去った。武蔵は忠利候に『剣は技』だけでなく、その精神面の鍛錬に努め、いかなる時にも馬之助の様に泰然とし揺るがない『平常心』の決意・態度・姿を『蔵の身』と言うと述べた。

若い頃を思い起こす。私は国内「北南・武者修行計画」を策定。左上段・突の名人・剣聖・坪内八郎・範士八段を筆頭に、剣道部員精鋭数十名を連れ、武蔵を追慕し岡山県大原町、この地で二刀流を学んだ。宮本武蔵の生誕地を訪ね、武蔵記念会館・武蔵道場に宿泊し部員と激しく修練した連日の合宿特訓が思い出される。

…蔵の身…

武蔵は『五輪の書・火の巻』に、この事を記すが、この大意は自我の環境には『生きる・死ぬ・愚か・弱さ・貧しさ』等々の不安があり、人に自我がある限りこの不安は付きまとうのである。払う道は唯一つ、自我の意識から脱却。心をそこに止めない境地に達して初めて救われると言う。つまり『生きる・死ぬ』の不安があっても心がわずらわされず何物にも恐れぬ「不動の心」と解釈できる。このような哲理は、現代では理解しにくい。この境地にたつて初めて『死』は『生』に転化する。だからこそ『人生日々感謝』。今日と言う日の一瞬一瞬を大切に生きる事の意義と、終わりのなき人生修行、啓蒙の醍醐味を私達に語りかけているのではなからうか。

…広報部長…

… 広報《編集》後記 …

■ 今回の講習会では、開会に先立ち、大江連盟会長から、永年に亘る修練を通じての実体験による『抜刀道修練上の安全確保の重要性』と、事故を誘発する『心の隙と事故予防の心得』について貴重な講話を戴いた…

■ 講話内容については、《本会報40号》の、冒頭に『講話内容の要点』を、掲載しておいたので各支部での周知徹底をお願いしたい…



本部 広報部長
中島 正夫

▼ 抜刀道存続の生命線は、『稽古・演武・競技』中の『絶対安全の確保』との『認識』の基に、大会実施中の会場内の『不安全行為』を無くし、競技中の安全を確保する為、事務局と広報部長が協議し、大会時の《公認・巡回安全委員》の新規導入とワッペンをデザイン中であり、各位のご協力をお願いしたい…

◆お人柄紹介◆

◆ 所属支部 ◆ 福岡支部

◆ 武道歴 ◆

※ …抜刀道 錬士七段…

NPO法人 日本抜刀道連盟

※ …居合道 教士七段…

※ …剣道 錬士七段…

全日本剣道連盟

※ …弓道 四段…

◆ 趣味 ◆

※ 武道の修練・研究を趣味としている。



橋 蘭 一 (67歳)
福岡支部 支部長

◆ 座右の銘 ◆

“随处作主” (臨済録) 随处に主と作る。この様な境地に達することが出来れば、理想の生き方が出来るのではなからうかと思う日々である…

◆ その他 ◆

居合の師から“枯れた技を遣え”との指導を受けた。それまでは力に頼るだけのものであったが、やっとこの境地を求めるとの出来る立場に至ったかと、厚かましくも思い自分なりに到達出来る、武道の奥地を求めたい心境で武道全般につき日々の稽古に励んでいる…

本部主催の講習会に遠路福岡から出席する、熱心な支部長がいる。会員は二人と言う新支部だが南の起点としての仲間づくりに期待がもてての仲間。園芸・囲碁・カラオケ等のご趣味は、と、聞くと『武道修練』一筋との答えが返ってきた。ご本人の、ご年齢からみて武道一筋の珍らしい、お人柄円満な明るいお方である。本連盟第二十四回大会では、総合司会を担当して戴き、連盟組織の一員として活躍して戴きたいと本部役員一同が期待している…

…本部 広報部…

◆事務局 便り◆

本部 事務局長
菅 野 茂



▼ 去る九月五日東京武道館での「制定刀法・公認審判」伝達講習会に参加された支部長は、大江連盟会長の《安全指導》講話。抜刀道修練中の安全確保の重要性について、再度支部会員への「伝達と指導」をお願いいたします。

▼ また、ホームページ・フェイスブックのご利用には、連盟にとって不適切と思われる「画像や情報」の取り扱いには十分にご注意下さい。

▼ 本連盟名を出してのマスコミなどの取材に際しては、露出内容などご注意をお願いいたします。

▼ 第二十四回全国大会では、選手の皆様が安全に注意して頑張ってくださいようお願い致します。

Report

…広報部からのお願い…

■ 会報40号は、39号に続き“57頁から61頁”の白黒でも鮮明コピーの計5枚構成です。

広報活動は、組織の“要”であり、各支部事務局はコピーして支部会員への配布をお願いします。 ◆広報 部長◆